

イーブック白書 Vol. 4

A Survey of eBook Usage and Perceptions at
the University of Liverpool

リバプール大学の イーブック利用者アンケート

リバプール大学のイーブック研究 Part 2



WHITE
PAPER
Vol. 4

リバプール大学のイーブック利用者アンケート

イントロダクション

ここ数年の間に、イーブックや電子ジャーナルは大学図書館やその利用者の間で急速に普及してきました。この急成長には多くの理由があります。まず、図書館はイーブックを利用することで、限られた予算や物理的なスペースの問題があっても新たなコンテンツを購入し続けることが可能になったことが挙げられます。加えて、各出版社がコレクションをリーズナブルな価格で提供するビッグディールのような提案を行い、イーブックがより魅力的なものになりました。

イーブックの増加により図書館カタログの特色が変化しています。以前と比べ、利用者ははるかに多くの情報にアクセスできるようになり、コンテンツとの関わり方が変わりました。イーブックの成長については注目を集めていますが、その利用方法やイーブックに対する利用者の考えが印刷版や他のリソースとどのように違うのかについてはよく分かっていません。リバプール大学は、シュプリンガーと2010年イーブック購入契約を交わす際、学生と教職員に対し、イーブックの利用と認識に関する包括的な研究を行うことに合意しました。このプロジェクトは、

- ▶ 利用に関する解析報告
- ▶ 利用行動やユーザーからのフィードバック
- ▶ イーブックおよび関連トピックをカバーする一連のフォーカスグループの3つのパートに分けて実施されました。

プロジェクトの最初のパートである利用解析の報告は、イーブック白書 Vol. 3 「ビッグディールによるイーブック導入：利用統計調査¹」で報告されています。この文献の要約を後に本稿でも紹介します。(P.3参照)

本稿ではプロジェクトの2番目のパートである、利用行動やユーザーからのフィードバック、およびその解析に焦点をあてています。学生と教職員から構成されるグループに対し、イーブックの認識と利用、更にイーブックの有用性に関する意見を収集しました。この調査では他のトピックも取りあげ、特にイーブックがどのように印刷版と比較されているのか、また関連する著作権についての認識を調査しました。

イーブック市場の成長

イーブックの発行件数は2005年以降、毎年着実に伸びていますが、ここ2年の間にその成長がさらに加速しています。2009年だけでイーブックの売上は2008年と比較してほぼ200%増加しました。シュプリンガーでも、イーブックは劇的な成長を遂げ、ダウンロード数は2008年に70%、2009年にはさらに36%増加し、5,600万チャプターが利用されました。2009年末までに、シュプリンガー・イーブックの利用は2008年初頭の倍以上になりました²。分かりやすく言うと、2009年のイーブックダウンロード数は2006年の電子ジャーナルの総ダウンロード数に匹敵するものでした。これは過去10年の間にジャーナルで見られた爆発的な増加と同様の成長曲線を示しています。また、イーブック・コレクションによって図書館が多くの重要なコンテンツを迅速に提供することが可能になりました。これは、図書館員が1つ1つのタイトルを選択し購入するために費やす時間が少ない非常に効率的なモデルで、貴重なリソースを幅広いセクションで提供します。重要性の低いコンテンツを購入するリスクは、適正価格における利便性および購入プロセスの時間の節約により相殺されます。また、利用者が遠隔地からでも24時間アクセスし、簡単に検索ができる電子コンテンツを特長とした図書館コレクションに移行するのを支援します。学際的研究が増加している今日、イーブック・コレクションは利用者が求める幅広いニーズに対応することを可能にしています。

¹Serials: The Journal for the Serials Community, Volume 23, Number 2/July 2010, pages 126–134

²www.IDPF.org Annual Industry Statistics

リバプール大学のイーブック導入

リバプール大学では、2005年に実験的に試みた少量のイーブック導入は成功しませんでした。その後、2006年夏にebrary Academic Complete collectionを購読契約し、最初の成功を収めました。同学は2008年夏にシュプリング・イーブックスの2005年～2008年出版のフルコレクション（全分野）を購入し、翌年には2009年のフルコレクションを購入しました。これらのコレクションは各年度末に購入したため、その年の間に個別に購入したタイトルと後にコレクションの一部として購入したタイトルにいくつかの重複がありました。重複を避ける為、図書館はジャーナルの購入と同様に年度初めにコレクションを購入するように方針転換しました。さらに、リバプール大学は、購入したシュプリング・イーブックスのタイトルの中から、個人がプリント・オン・デマンドのソフトカバーを割引価格で注文できるMyCopyプログラムにヨーロッパで最初に参加した図書館の1つになりました。

シュプリング・イーブック・コレクション

シュプリング・イーブックスは12の分野別コレクションにパッケージ化され、2005年以降、印刷版と同様に提供されてきました。イーブックは、電子ジャーナルと同じプラットフォームSpringerLink（シュプリングリンク）*に搭載されています。各チャプターはPDFファイルで、閲覧、ダウンロード、プリントアウトが可能です。イーブック・コレクションには、主にモノグラフ、寄稿論文集やプロシーディングスなどがあり、またテキストブックやレファレンス・ブックも含まれます。

イーブック白書 Vol. 3

ビッグディールによるイーブック導入: 利用統計調査 要約

イーブック白書 Vol. 3では、リバプール大学によるCOUNTER準拠の利用統計に関する解析結果の概要が報告されています。この報告では、ビッグディールによるシュプリング・イーブック・コレクションの導入は、同学にとって事実上よい買い物であったと結論づけています。全分野とも、あまねく定期的に利用され、利用されないタイトルは毎年減っていきました。注目すべきは、新しいコレクションが追加されても過去の出版年のタイトルにも相当量の利用が継続的にあり、しばしば最新のタイトルと肩を並べるほどであったことです。

この報告では、イーブックをデータベースとして購入することが、学術研究のコンテンツ提供には理想的なモデルと考えられることも指摘しています。イーブックやジャーナルを同じプラットフォームで横断的に検索できる強力な検索ツールにより、利用者はそれがブックであれジャーナルであれ、必要な関連情報を簡単に探すことができます。イーブックは図書館のジャーナル資源を補完し、多くの場合、ジャーナルの利用を加速させる効果を生み出しました。電子コンテンツへの予算配分は、圧倒的にジャーナルの購入に充てられる傾向がありますが、こうした配分を再考する必要があるだろうと結論付けています。

イーブック調査結果

以上の背景を踏まえて、リバプール大学の本調査（Part2）に話を戻します。2010年春、図書館で約21,000名の学生と2,000名の研究員を含む教職員（以下教職員）に調査への参加を募集しました。回答者になりうる場合はオンライン調査をEメールで依頼し、図書館員はフェイスブックやツイッターも利用して募集を行いました。アンケートにすべて回答した1,571名のうち、1,267名が学生で残りの224名は教職員でした。人数で見ると回答者で圧倒的に多かったのは学生ですが、回答の割合が多かったのは教職員で、学生は約6%、教職員は約11%がアンケートにすべて回答しました。アンケートは、イーブックに対する認識や利用行動、利用に関する意見、印刷版書籍との比較、また著作権といったトピックに焦点があてられました。



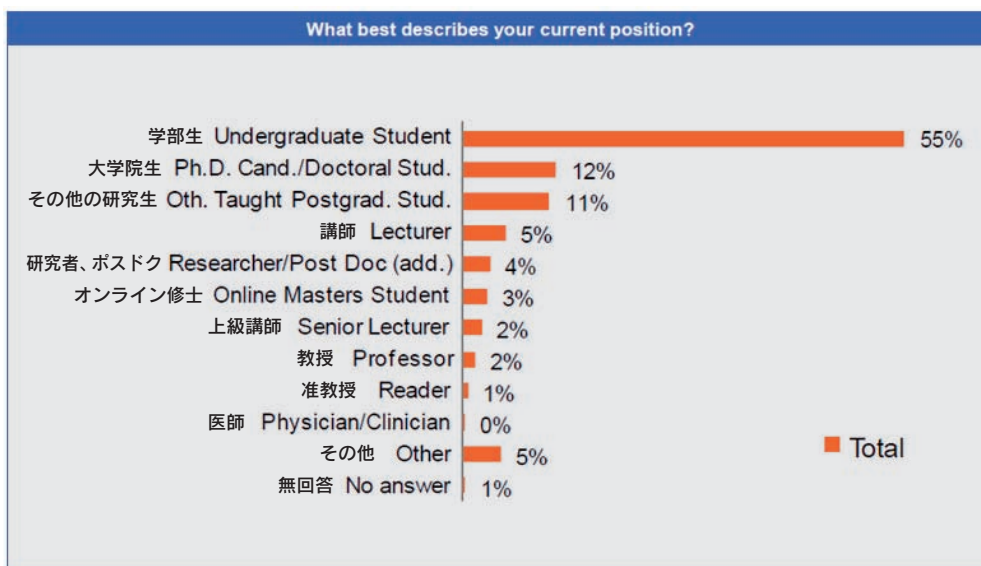
詳細はイーブック白書 Vol. 3 参照

* www.springerlink.com

回答者の内訳

既述のように回答者で圧倒的に多かったのは学生でした。回答者の81%は学生で、そのうち55%が学部生、残りの26%が大学院で各種学位を取得しようとしている学生でした。14%が教職員で、教授と講師の割合がおおよそ半々でした。

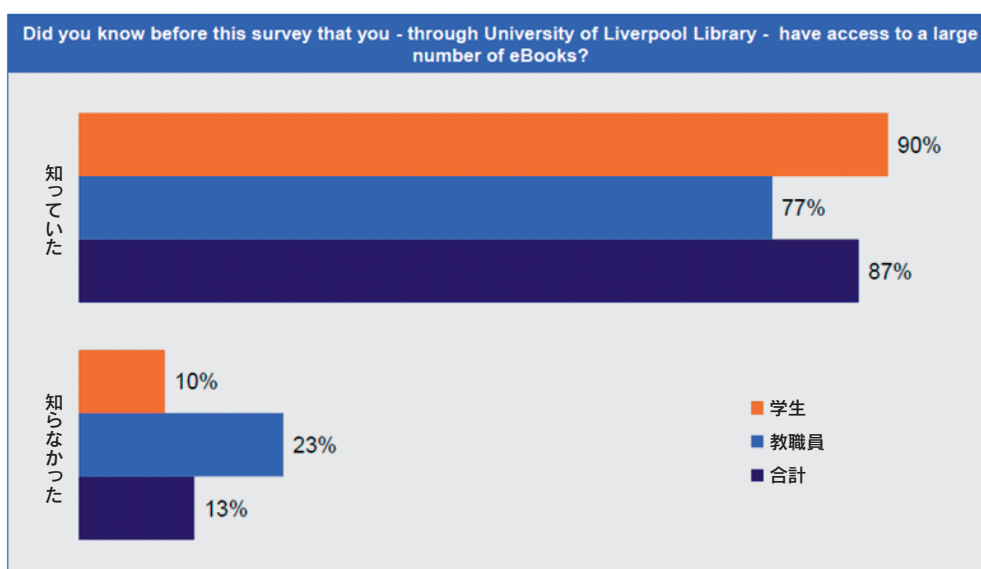
図1
あなたの現在のポジションに最も近いのは次のうちどれですか？
(総回答者数: n=1,570、*other =大半が職員、質問番号: q24)



イーブックの認知と利用

本調査の最初の質問は、イーブックの認知に関するもので、よい結果が得られました。回答者の87%は図書館が多くのイーブック・コレクションを提供していることを認識していました。下記のグラフ(図2)が示すように、両者を合わせた認知度は非常に高く、学生の認知度(90%)は教職員(77%)と比較して若干高いものでした。

図2
リバプール大学図書館を経由して多くのイーブック・コレクションにアクセスできることを、この調査以前に知っていましたか？
(総回答者数: n=1,570、質問番号: q01)



さらに、学内または学外でのイーブック利用経験の有無も質問しました（図3）。学生の85%、教職員の77%が「利用経験あり」と回答しました。両者を合わせた「利用経験あり」の回答率は非常に高く、83%でした。学内での認知やイーブックへの親しみに関するこれらのポジティブな回答は、この調査の残りの部分において重要なポイントとなります。学生と教職員の両グループがイーブックに対して同程度の認識と親しみを持っているという事実は、このグループそれぞれのイーブックの利用傾向や考え方に関する基本的な比較を可能にします。

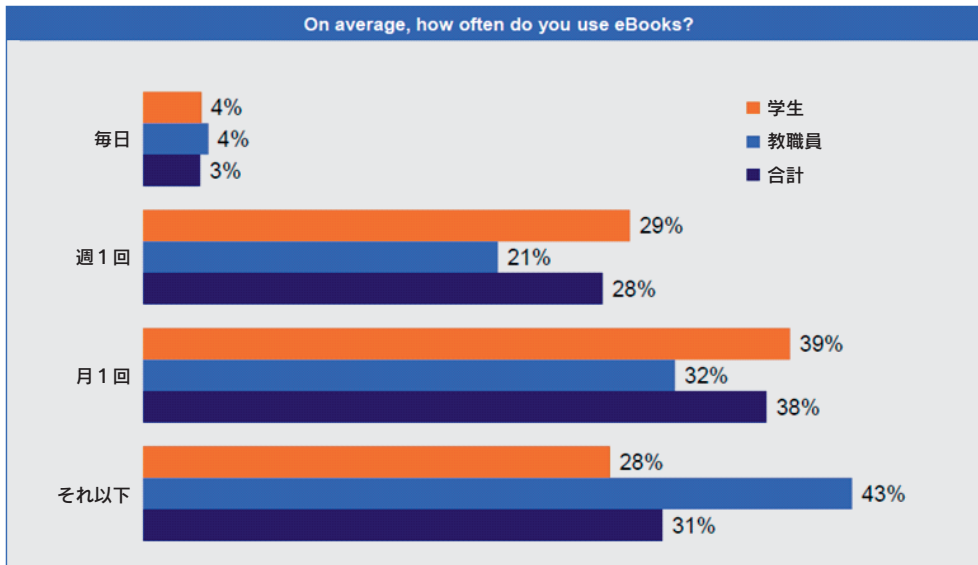


図3

平均、どのくらいの頻度でイーブックを利用しますか？
 (イーブック利用者総回答者数：n = 1,308、質問番号：q05)

イーブック・コレクションに対する高い認知度は、少なくとも2つ以上の重要なファクターによって説明可能です。1つ目には、イーブックのMARCレコードはすべての印刷版書籍と同様に利用できることです。利用者は図書館カタログを検索し、イーブックを見つけて迅速にコンテンツへアクセスできます。実際に、図書館カタログは図書館の電子コンテンツを検索する主要な方法です。2つ目には、図書館ではイーブックの新刊や特定のタイトルを図書館ホームページ、ブログ、および情報リテラシーガイダンスで案内していることです。

リバプール大学では、イーブックは主に学習や研究に使用されています（図4）。学生では、イーブックを学習用（80%）および研究用（70%）にほぼ同じ割合で利用しています。当然のことながら、教職員では異なる利用傾向がみられ、学習目的でのイーブック利用は少なく（31%）、研究目的での利用（85%）が多くみられました。さらに、教職員の50%近くが教育目的で、主に授業や教材に利用するためにイーブックを活用しています。

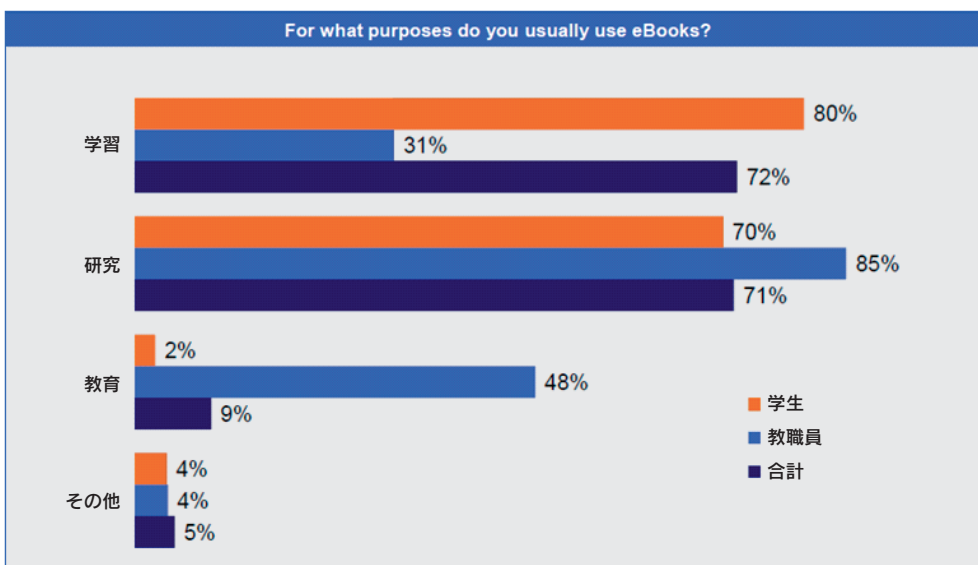


図4

普段どんな目的でイーブックを利用していますか？
 (イーブック利用者総回答者数：n = 1,308、質問番号：q06)

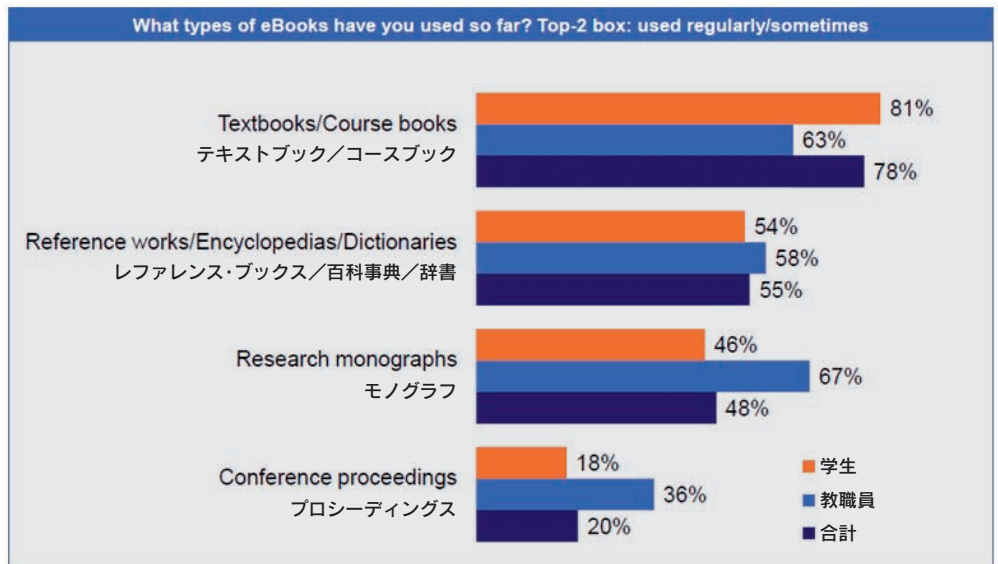
次にどのような種類のイーブックを（2回以上）利用しているかを質問しました（図5）。図4で示したように、利用目的は回答者のグループによって異なります。

学生の81%はテキストブックやコースブックを最も頻繁に利用していると回答しました。学生は、テキストブックよりも若干頻度は低いものの、レファレンス・ブックス（54%）やモノグラフ（46%）も頻繁に参照していると回答しています。

教職員では、モノグラフ（67%）の利用が最も多いのですが、他と大きく異なるわけではありません。このグループは利用目的（研究、教育、学習）が混ざり合っているので、テキストブックとレファレンス・ブックスの利用はモノグラフとほぼ同じ頻度でした。

これらの結果から、イーブックは印刷版書籍と同様の目的で利用されていることは明らかです。電子と印刷版の両方で同じコンテンツが見つかることを考えれば、これは驚くようなことではありません。学生と教職員とでは、学内での立場の違いを反映して若干異なった利用パターンであるという調査結果が得られました。しかし、イーブックの利用は具体的には印刷版書籍と異なります。イーブックは一定量、しかも様々な情報へより多くのアクセスを提供し、これにより利用者は印刷版書籍よりも早く効率的にイーブックの中身を拾い読みすることができます。

図5
どのような種類のイーブックをこれまで定期的に、または時々利用しましたか？
（イーブック利用総回答者数：n=1,308、評価尺度：定期的に利用、時々利用、まれに利用、利用無しから上位2つの項目にあたるものを選択、質問番号：q07）



利用者の認識を実際の利用統計と比較すると興味深い結果が得られました。画面で文章を読むのを楽しむなどのような個人的な好みは完全に主観的で、こういった個人的な傾向を理解するにはこの類の調査がおそらく最良の方法です。実際の利用は非常に正確に測定でき、利用統計が示すように*、学生のテキストブックの定義の違いが、自身のテキストブック利用に関する認識を増幅させたものと考えられます。出版社が「モノグラフ」または「プロシーディングス」と定義しているものは、学生によってはコースブックと定義している可能性があります。このことは、学生は殆どテキストブックばかりを利用するものだという一般的な前提が正しくないことを示しており、重要なポイントです。モノグラフやプロシーディングスのような類の書籍は、教職員だけでなく学生にとっても研究ツールとして大変価値があります。

以上の認識に関する調査結果をふまえ、実際の利用統計と比較しました。チャプターのダウンロード結果は学生と教職員による利用が混在しています（図6）。それを考慮しても、テキストブックのチャプターダウンロードは全体の11%にすぎず、図5で示した数値よりはるかに低い値であることに注意が必要です。モノグラフやプロシーディングスはチャプターダウンロード全体のちょうど半分を占めていて、非常に近い値になっています。ここでわかるのは利用に関する推測や認識は非常に不正確であるということです。図書館は、詳細な情報を得た上で将来の購入を決定するために、利用できるすべての情報とツールを駆使し、利用パターンを見極めるべきであると考えられます。

*利用統計レポートでは、テキストブックの利用頻度はモノグラフ、プロシーディングス、寄稿論文集、専門書の次であった。（図6.参照）

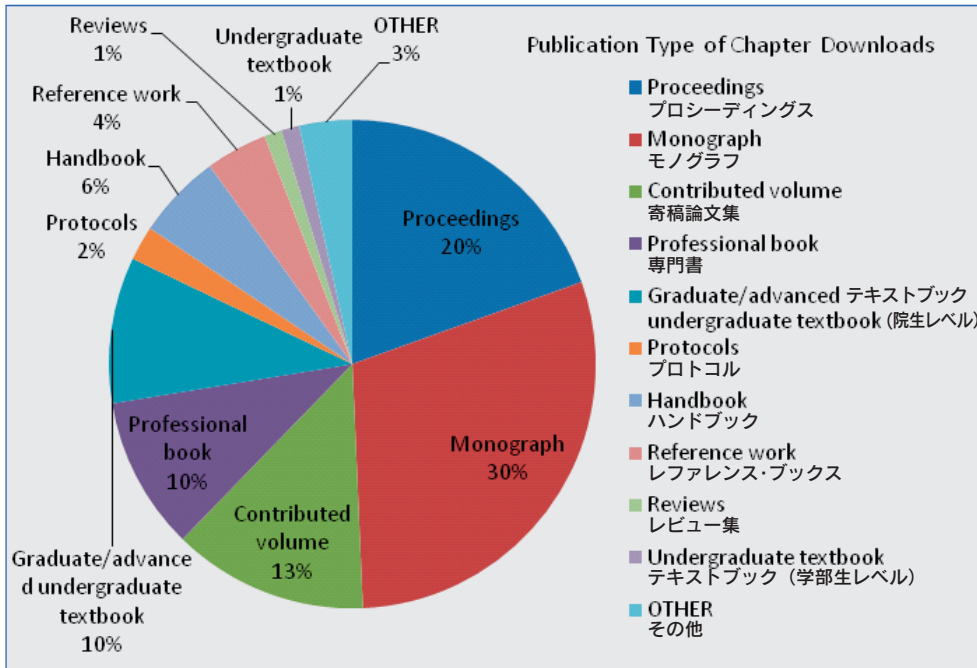


図6
ダウンロードされた書籍のタイプ

図7で示されているように、多くの場合、学生(73%)も教職員(66%)もキーワード検索を行ってイーブックを見つけています。学生は図書目録を用いて特定のタイトルの検索も行っていました。教職員ではそれぞれの分野において関連する、または定評のある良書を探すケースが多く見られました。いずれのグループでも特定の分野内でタイトルを閲覧していましたが、それを見つけ出す方法は、最も直接的で効率的な方法であるキーワード検索でした。この発見は、「チャプターをデータベース」で購入することが、研究機関にとってイーブックを購入する大変有効な方法であるとする本稿の主張を裏付けています。さらに、キーワード検索への依存度が高いことは、十分にインデックス化された電子コンテンツが検索に重要であるという考えの裏付けとなります。利用を最大限に伸ばすためには、イーブックのチャプターは電子ジャーナルと同様に、インデックス化され書誌データベースに登録されている必要があります。

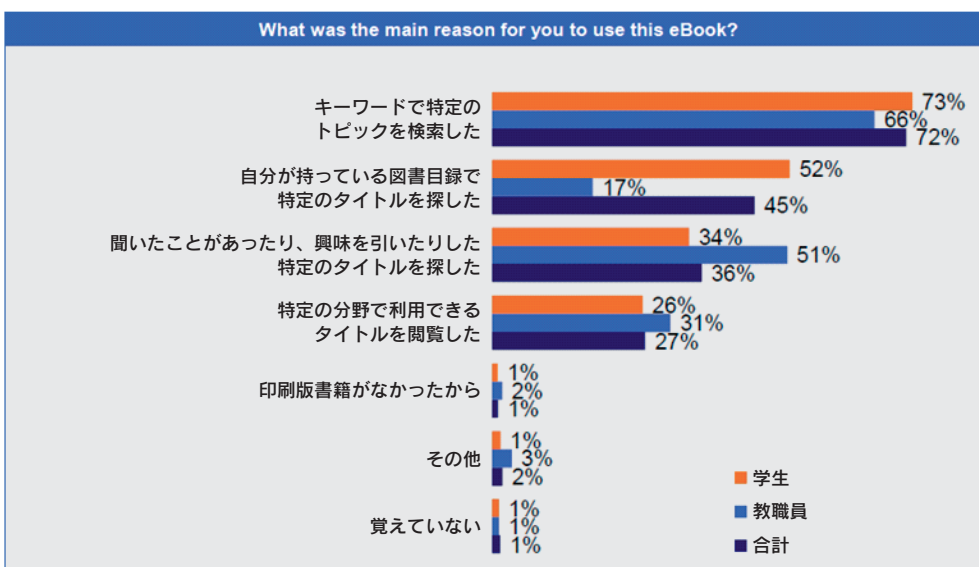
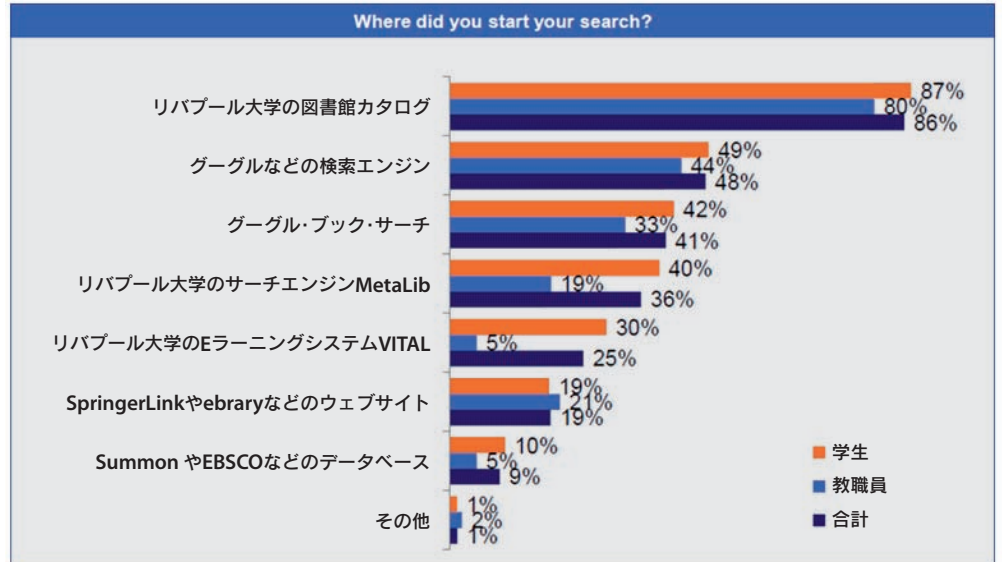


図7
主にどのような理由でそのイーブックを利用しましたか？
(イーブック利用者総回答者数：n = 1,308、質問番号：q08)

図8

どこから検索を開始しましたか？
 (イーブック利用者総回答者数: n = 1,308、質問番号: q09)

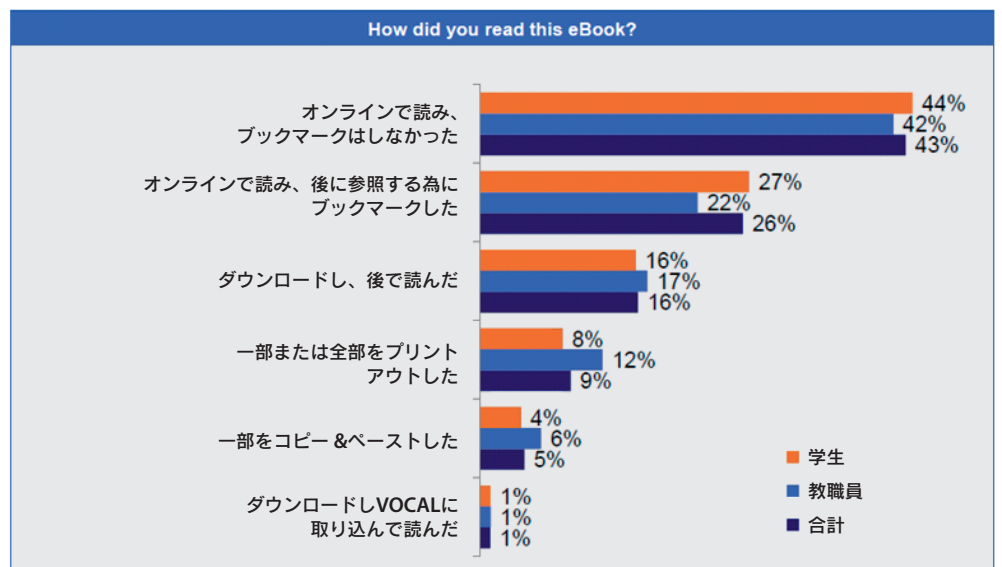


利用者はイーブックを探すのに様々な方法を用いていました (図8)。リバプール大学図書館カタログ (OPAC) が最も利用されたツールで、当時の学生および教職員の86%が使用しました。しかし、他のツールもそれなりの頻度で利用されていました。グーグル・ブックサーチをはじめとする検索エンジンが非常に頻繁に使用され、MetaLib、Summon、およびEBSCO Discovery Service (EDS)といった図書館の検索ツールが後に続きます。当時、MetaLibは図書館の横断検索ツールで、SummonおよびEDSはベータ版が利用されていました。その後、図書館はMetaLibの代わりにEDSを採用しました。学生の3分の1近くが時々 Blackboard VLE (リバプール大学ではVITALと名付けている学習システム) から検索を開始したと回答したことは注目に値します。ですので、教員は授業に関連するイーブックを認識しておき、VLEを通じてそれらを学生に案内しておくべきです。SpringerLinkおよびebraryのようなサプライヤー提供のツールも、一部利用されました。図8が示す値は、シュプリングァーが提供する利用統計と同等でした。SpringerLinkの利用者はコンテンツを探すのに、47%が図書館カタログを使用し、27%が外部の検索エンジン (Google) を使用します。利用者は多様なツールを用いて情報検索をしていると分かりました。出版社や図書館はこれを考慮し、電子コンテンツを検索ツールやデータベースで幅広く利用できるようなする必要があります。

次に、探しているイーブックが見つかった後、どのような行動をとったかを尋ねました (図9)。イーブックは、研究目的での利用や、その場限りで済むような情報を探している場合に好まれます。これは学生も教職員も同様の回答でした。それぞれのグループで異なる種類のイーブックを利用する一方で、検索後のコンテンツの利用の仕方は非常に似ています。利用者がイーブック全体をダウンロード、またはプリントアウトをすることはまれで、その代わりにコンテンツをオンラインで読み、時折、ブックマークしておいて後で参照します。

図9

イーブックをどのようにして読みましたか？
 (イーブック利用者総回答者数: n = 1,308、質問番号: q10)



これは、イーブックは検索したり、コンテンツを拾い読みしたりするのに好まれる一方で、印刷版書籍は長時間かけてじっくり読む場合に好まれるという結果が得られた次の質問の回答と一致します(図10)。この傾向は、利用者が様々な種類のコンテンツを利用するのを好むという回答からも分かります。どのような場合に印刷版書籍を好むかという質問において、最初から最後まで読みたい場合は印刷版書籍の方が好まれる傾向が非常に明確に見られました。同様に、イーブックによって選択肢が広がることは研究を進める中で好ましいかという質問に対しては、回答者は明確にこの考えを支持しました。他の質問については、イーブックか、印刷版書籍かを明確に支持する傾向が鈍く、研究や学習以外の目的でのイーブック利用に関しては、利用者はあまり意識していないと思われます。結論として、イーブックは情報を検索するには大変利便性の高いツールとなりますが、長い文章や書籍全体を読む場合には特に満足を与えるものでなく読みやすいものではないようです。

図10で示されているように、利用者は特定の目的にはイーブックが有用で、他の目的では印刷版書籍がよいと考えています。回答は利用者全体でほとんど一致していました。このことは、異なる理由でイーブックを利用している可能性があるものの、利用者はイーブックを利用する際におそらく同じ経験をしていると考えられます。イーブックは、利便性、入手のしやすさ、速報性、およびテキストから情報を取り出すことが必要な分野において圧倒的に好まれています。しかし読書の気楽さや楽しみといった観点からは、印刷版書籍が明らかに好まれます。

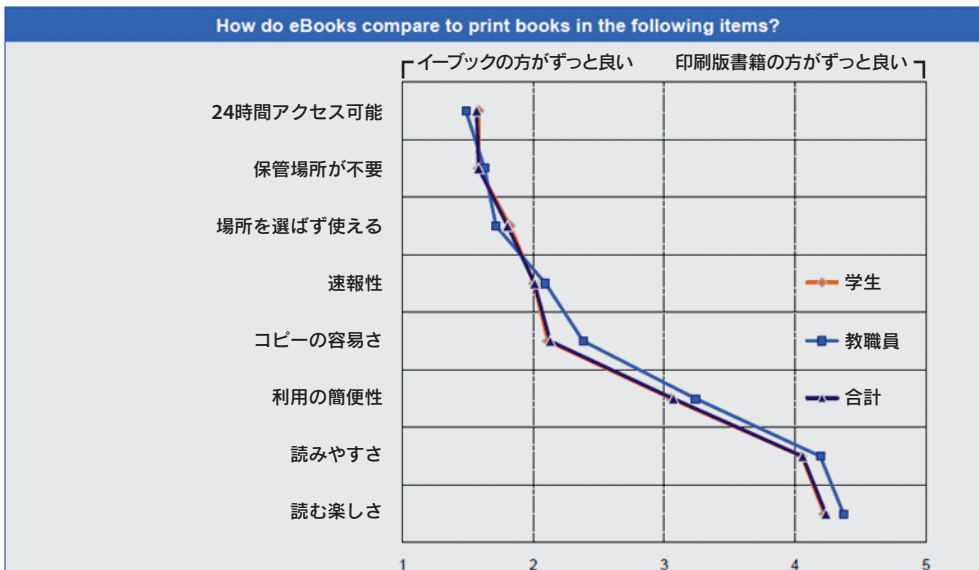


図10

以下の項目に関してイーブックと印刷版書籍を比較してください。(イーブック利用者総回答者数: n = 1,308、1~5 [1=イーブックの方がよい、5=印刷版書籍の方がよい]の尺度による5段階評価、質問番号: q15)

次に、シュプリンガーのMyCopy*プログラムについて質問しました(図11)。MyCopyは、個人利用を目的とする場合に、ソフトカバーの印刷版書籍を割引価格で入手できるサービスです。

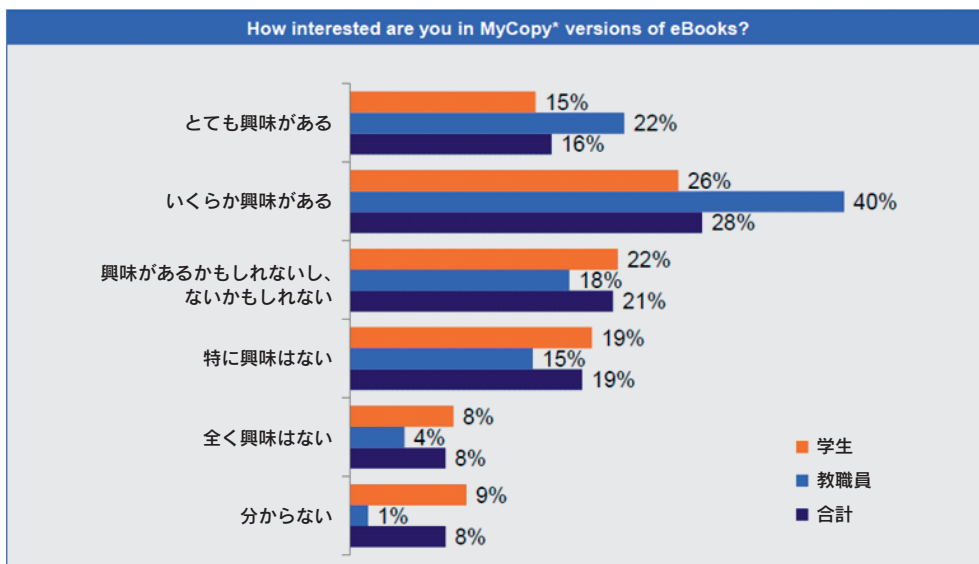


図11

イーブックのMyCopyに対してどのくらい関心がありますか?(イーブック利用者総回答者数: n = 1,308、質問番号: q22)

*MyCopy

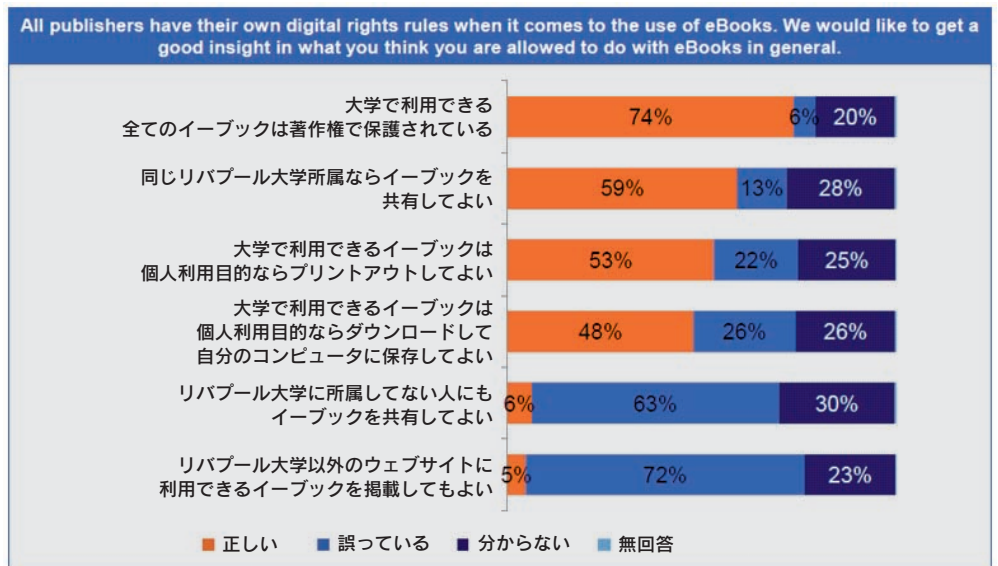
図書館が購入したシュプリンガー・イーブック・コレクションを、利用者が冊子でも入手したい場合に、割引価格で購入できるサービス。個人用途に限るソフトカバーのオンデマンド書籍としてアメリカ・ヨーロッパでサービスが開始されている。

教職員の62%が、個人目的で利用するMyCopyに関心を持っていると回答しています。学生はこのサービスに関して若干消極的で、関心を持っていると回答したのは41%のみでした。しかし、MyCopyに全く関心がない(8%)と回答したのはごく少数であったのは興味深いことです。

多くの電子コンテンツが増えるにつれ、著作権の問題が懸念されています。利用者は規制内でどの程度許容されるのかといったことを必ずしも明確に意識をしていません。著作権に絡む問題について、回答者にどの程度のことであれば行って良いと考えているかを尋ねました。回答からは、電子コンテンツの著作権規制に関する混乱が浮き彫りになりました。下記に示された各行動(図12)の是非について、回答者の20%以上がその行動が許容されるものなのかを知りませんでした。半分の質問で、回答はほぼ半数に分かれました(わずかに過半数が明らかに片方に寄っている設問もありますが)。これは利用者への教育が必要であると示唆しています。また、著作権規制下で何が許されるか、明確な理解を利用者に期待する前に、マーケットにおいてある程度の標準化が必要であることも示しています。プラットフォーム機能の違いやDRM(Digital Rights Management, デジタル著作権管理)の導入が混乱に拍車をかけています。例えば、プラットフォームによってチャプターまたは書籍全体のダウンロードが制限されていたり、コンテンツのプリントアウトに関する規制が異なっていたりします。よって、多くの場合、回答はその時点で思い浮かべるイーブックのプラットフォームに影響されます。「わからない」という回答の多くは、暗に「プラットフォームによる」ということを示していた可能性があります。

図12

すべての出版社には、イーブック利用に関してそれぞれのデジタル著作権規制があります。イーブックの著作権に関し、あなたが一般に「許容されている」と思う行動を選んでください。
(イーブック利用者総回答者数: n = 1,308、「はい」の割合、質問番号: q17)



DRMがかけられていないシュプリンガー・イーブックは、利用者にとってかなりの柔軟性と有用性があります。図書館から直接アクセスする方法に加え、利用者はどの場所からでもパソコンやモバイル機器から図書館カタログに簡単にアクセスできます。さらに、個人利用が目的である限り、自身に必要なイーブックチャプターを複数のデバイスに配信することができます。

おわりに

本調査から、リバプール大学におけるイーブックの認知および利用に関する多くの結論を導き出すことができました。回答者の80%以上が、図書館を介してイーブックにアクセスできることを知り、実際に利用していたことから、イーブックは図書館サービスにおいて不可欠なものと分かりました。多くの利用者がイーブックの有用性を認識しており、迅速に情報にアクセスできる利便性の高さがイーブックを選ぶ理由となっています。イーブックは研究を行う際に非常に好まれる一方で、印刷版書籍は最初から最後までじっくり読みたい場合に明確に好まれます。この傾向は書籍の提供方法に大きな影響を与える可能性があります。自然科学分野の場合はイーブックをよく利用し、人文科学分野の場合は依然として印刷版が求められています。全体として、イーブックは印刷版書籍を補完しますが、近い将来に完全に印刷版書籍に取って代わるものではありません。

調査結果や利用統計から、イーブック利用に関する認識は、特に学生において正確でない可能性があることも結論付けられます。一般的なコンセンサスや学生の認識からはテキストブックの圧倒的な利用が示唆されますが、実際の利用統計からは、シュプリンガーのイーブックはモノグラフ、プロシーディングスなどの利用がテキストブックと比較して多いという異なる結果が得られました。このことにより、出版社が発行する書籍の種類が影響を受ける可能性がありますが、学生がテキストブックと見なすものが実際には出版社や図書館の定義とは異なっている場合があるという事実も分かりました。また、学生がテキストブックを最優先としているのに対し、講師や研究者の間ではモノグラフが最も重要なイーブックの種類として示されたことも公平を期して指摘しておきます。よって、教育と研究の両方の性格を合わせつつ機関では、各種のイーブックが利用できることが重要です。このことは、ある特定の分野において異なる種類のイーブックを含むコレクションを購入することが、一つ一つ個々のタイトルを購入する場合と比較して、なぜより良いソリューションである可能性が高いのか、という疑問への回答となります。

また、利用者は多様な検索ツールを駆使してコンテンツを見つけしていました。図書館カタログは圧倒的に多く利用されており、これは、図書館がカタログにきちんとした書誌データを有していることの重要性を示しているだけでなく、検索ツールとしての使用に十分なものであるのか、さらに進化すべきなのか疑問を投げかけています。グーグルやグーグル・ブックサーチといった検索エンジンもイーブックを探すのに役立っていますが、その役割は電子ジャーナルのそれよりも小さいため、さらなる検討が必要でしょう。アブストラクトおよびインテックスリソースが強化され、更にイーブックのコンテンツと相性が良くなれば将来の様相は変わると考えられ、検索エンジンはより大きな役割を果たすことが予想されます。さらに、学生の3分の1近くが、Blackboard VLEを用いて検索を開始していました。このことは、この種の利用が増加していることが強調されると同時に、出版社がこれらのツールと連動して自社のイーブックが利用出来るようにする必要があると示しています。

図書館、出版社、およびプラットフォーム開発業者は、著作権領域において行うべきことがあります。イーブックの著作権規定に関する知識が十分でないため、回答者のおよそ4分の1が著作権関連の質問に答えられませんでした。出版社およびアグリゲーターによってアクセス条件が大幅に異なっていることも理解の妨げとなっています。このため、イーブックの利用条件を電子ジャーナルのそれに近づけるようにする必要があります。

教職員の3分の2、および学生の半数近くがシュプリンガーのMyCopyに興味を示しました。これは比較的新しい出版モデルで、オンライン検索やコンテンツ閲覧と、印刷版で詳細を読みたいという要望とのギャップを埋める可能性があるにもかかわらず、受け入れられるまでにはある程度時間がかかるでしょう。イーブックにより印刷版の購入を減らそうとしている図書館は、MyCopyに関心を持つ可能性があります。図書館はビッグディールでイーブック・コレクションを導入し、コストとスペースを最低限のものとするとともに、利用できるコンテンツは最大化することができます。そして印刷版を必要とする利用者には、これらのコレクションにオンデマンドの印刷サービス (MyCopy) を加えることができます。

シュプリンガーのイーブック白書



Vol.1

電子ブックが大学図書館にもたらすもの
その価値とコスト (2007)



Vol.2

ユーザーの声をまとめました (2009)



Vol.3

ビッグディールによるイーブック導入:
利用統計調査
リバプール大学のイーブック研究 Part 1 (2011)

シュプリンガー・イーブック・コレクションに関するお問い合わせは

シュプリンガー・ジャパン株式会社 カスタマーサポート部

- ▶ 電話 : 03-6831-7003
- ▶ ファックス : 03-6831-7006
- ▶ 電子メール : ebooks@springer.jp
- ▶ ホームページ : www.springer.jp